大分県における椎茸生産業の現況と当面の対策

ー竹田地方を中心としてー

大分県竹田事務所 松 岡 義 弘
九州大学農学部 青 木 尊 重

1. 大分県における椎茸生産業の現況

昭和56年度における大分県の乾椎茸の生産量は3,288 tで，全国生産量14,735 tの22％を記録している。

1）大分県における農業地帯と林業地帯の区分

図に示すとおり，1戸当りの経営耕地は，竹田地域1.08 ha（1位），三重地域0.91 ha（2位）宇佐地域0.87 ha，玖珠地域0.81 haの順となっている。又小さい地域では，佐伯地域0.42 ha，日田地域0.49 ha，中津地域0.62 haが小さく，県平均は0.72 haとなっている。

次に，100万円以上の農産物（椎茸を含む）の販売を行った農家戸数の割合は（総農家数と対して）竹田地域540％，三重地域428％，玖珠地域423％となっており，ついで宇佐地域326％，日出地域304％が続いており，低い方では佐伯地域166％，日田地域193％，中津地域195％となっている。宇佐日出地域においては，1戸当りの経営耕地が割合に大きいにもかかわらず，上記3地域と比較して，100万円以上の農産物を販売した農家の割合がかなり低いのは，後述のとおり椎茸生産の占める割合の低いことが一因と考えられる。又300万円以上の農産物を販売した農家についてみると，三重地域142％，竹田地域138％，玖珠地域124％の3地域が10％を越えている。したがって，個別経済の面からみると，竹田，三重，玖珠の3地域が農業主体の地域を構成していると考えられる。

又，林業地帯についてみると，スギ，ヒノキの人工林面積では，日田地域40150 ha，佐伯地域30624 ha，中津地域20.984 haの順となっており，総林家数に対する10 ha以上の林家の割合をみてみると，佐伯地域167％，日田地域8.5％，中津地域7.9％の順となっており，県平均の5.2％を上回っている。なお1戸当りの平均所有面積は，佐伯地域5.9 ha，日田地域5.0 ha，中津地域3.7 haの順となっており，県平均の2.7 haを大きく上回っている。したがって，佐伯，日田，中津の3地域が林業地帯を構成しているものと考えられる。

又，農業地帯である竹田，三重，玖珠の3地域においても，上記の3地域につぐ林業の生産規模を有している。

2）大分県における椎茸生産業の位置づけ

大分県における地域別椎茸生産量の割合は，三重地域が17％，竹田，玖珠の両地域が12％，ついで，日田，佐伯地域が10％となっている。又椎茸生産戸数からみると，県計で13,491戸，県事務所別では三重地域が2,560戸（19％），竹田地域が2,164戸（16％）である。又椎茸を年間100万円以上販売している農林家は，三重地域の1,098戸（19％），竹田地域の1,045戸（18％）であり，1.000戸を越えているのは上記2地域のみである。

次に県下における椎茸生産業の位置づけを検討するために，農業，林業地帯別にみてみると，農業地帯に属する竹田，三重，玖珠の3地域で，椎茸を年間100万円以上販売している農林家が2.855戸あり，県全体5,871戸の48.6％と約半数を占めており，300万円以上の販売については，51％と販売額が多くなるにつれても，この3地域のウエイトが一層高くなっている。

一方，林業地帯である佐伯，日田，中津の3地域では，椎茸を年間100万円以上販売している農林家は1,518戸であり，県全体の25.9％にすぎない。300万円以上の販売については，23％となり，むしろウエイトは低くなっている。したがって県全対からみると，大分県の椎茸生産業は，いまや農業地帯における複合経営農家に対して，農業を支える基幹作目としての重要な役割を果しているといえる。

又，農業，林業地帯別に，農業所得に対する椎茸生産の依存度については，農産物で100万円以上販売のある農家に対して，椎茸で100万円以上販売している農家の割合で比較してみると，林業地帯の日田地区で50.6％，佐伯38.9％，中津21％となっており，農業地帯の竹田33.1％，玖珠344％，三重26.8％となっているが個別農家所得からみると，林業地帯における椎茸生産の依存度が農業地帯におけるそれよりも高くなる傾向を示している。このことは，人工林成熟期到達前，あるいは，山間地等のため農業地帯よりも，育林的な作目が少ない等によると考えられ，やはり林業地帯においても，育林経営を確立するための手段

として，椎茸生産が林業の振興に重要な役割を果していると考えられる。

このような事を反映してか，特に近年，椎茸生産量は増加する一方であり，逆に価格は下落傾向を示している（本年は若干もちなおしているが）かかる現況を直視するとき，椎茸栽培についても大きな曲り角にさしかかっているものと考えざるをえない。

特に大分県では，農業，林業双方の経営基盤の中に椎茸が強く組みこまれており，椎茸産業の基盤が崩壊すれば，農村や山村の生活は大巾に破たんすることとなりかねない。

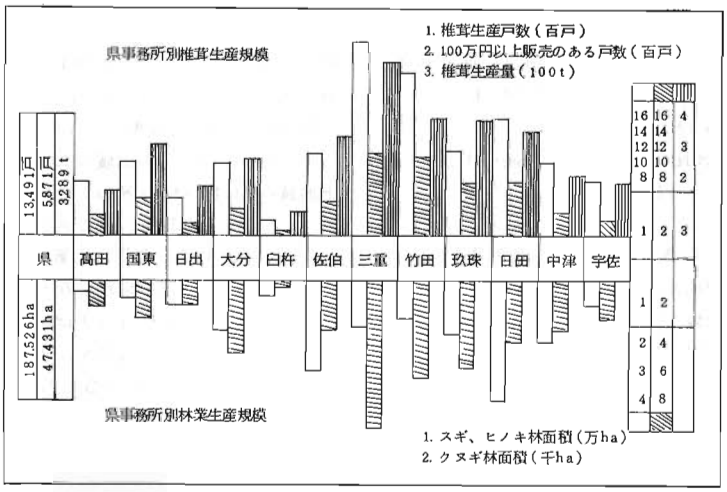
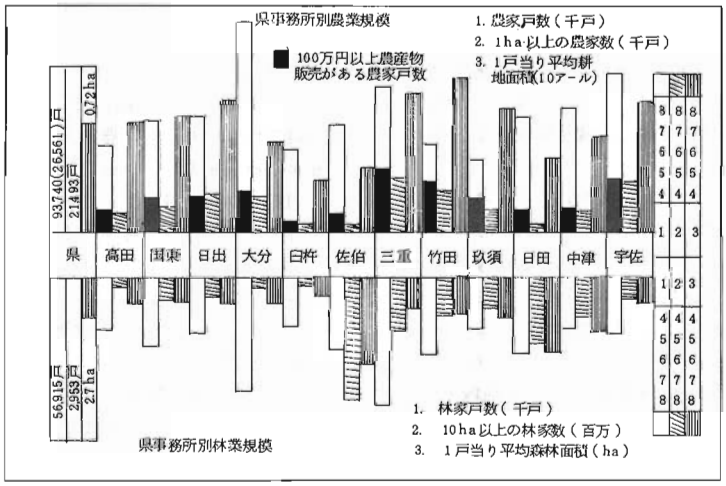
したがって，当面，椎茸栽培について，次の4項目を重点事項として取組みたいと考えている。

2. 当面の対策

(1) 明るい榾場をつくり，品質のよい椎茸生産。

(2) クヌギ林を造成して，経営の安定をはかる。

(3) 椎茸生産技術の向上につとめる。

(4) 生産者の意志を結集して，大分県の風土に適した銘柄品の確立を行うこと。

資料 (1) 1980農林業センサス
(2) 大分県森林計画